



三条北ロータリークラブ WEEKLY REPORT : 週報

オンラインカ・ハキーム・ババロラ RI 会長

「持続可能なインパクトを生み出そう」

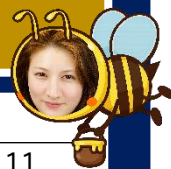
～CREATE LASTING IMPACT～



第 2560 地区：富山 洋 ガバナー 「ロータリーで人生をより充実させよう」

三条北 RC：齋藤孝之輔 会長 「つながりを力に、未来へつなぐ」

～人と地域と、自分を豊かに～



会長：齋藤孝之輔 幹事：野崎喜嗣 SAA 大橋桂子

例会日：火曜日 12：30～13：30 例会場：三条ロイヤルホテル Tel 0256-34-8111

◆本日の行事：「基本的教育と識字率向上月間」

◆本日の出席：43名中27名

◆先々回の出席率：43名中37名 86.05%
(前年同期 80.43%)

* 本日の配布書類等

- ・ロータリーの友 9月号
- ・月信 9月号 (閲覧)
- ・週報 No.1845・1846 (HP)

◆先週のメイクアップ(敬称略)：

8/27 新家庭会合 石川友意、小林伸行、坂内優子
鈴木宏彰、田口実仁佳、湊岡 茂
齋藤孝之輔、野崎喜嗣、石黒隆夫8/27 三条東 RC 石川勝行、石川友意、小林伸行
坂内優子

8/29 地区諮問委員会・森田年度結団式 米山忠俊

会長挨拶：松山浩仁 副会長



今日から 9 月に入りましたが、
本日 9 月 1 日は 103 年前関東大震災があった日です。その防災意識を忘れないようにとこの日を防災の日と決めました。

私が 4 才の時に新潟地震があり、
31 年前には京都で震度 5 の阪神淡路大震災を経験しました。その後中越沖地震があり、同じく京都にいる際、東日本大震災の余波を感じテレビで目を覆いたくなるような映像を観ました。また 7 月

には新潟、そして先月に千葉、また先週は北陸で浸水被害があったりと、災害が続くと防災意識が薄れないどころか、常にいつ災害に見舞われないか心配で、仕事が手につかないようだと思身がもちません。

避難する際に慌てて階段で転倒し血だらけになっている自分を想像するのではなく、冷静にゆっくり階段を降りながら避難する自分の姿を思い浮かべて、災害を正しくおそれて下さい。

幹事報告：野崎喜嗣 幹事



- ・富山ガバナーより、「RID2560 財団・米山感謝の集い午餐会のご案内」
日時：10 月 24 日(土) 12：00～14：30 会場：ホテルイタリア軒
「2026-27 年度 第 2560 地区役員ご推挙のお願い」
- ・新潟中央 RC より、「2026-27 年度タイに医療機器を贈るグローバル補助金プロジェクトご参加とご協力をお願い」
- ・4クラブ合同クラブラーニング委員会より、「4クラブ合同クラブラーニング委員会のご案内」
日時：10 月 31 日(土) 16：00 会議 18：00 懇親会 会場：越前屋ホテル
- ・三条 RAC より、「9 月第二例会のご案内」
日時：9 月 17 日(木) 19：30～21：00 会場：まちやま
- ・ロータリー囲碁同好会より、「秋の第 24 回ロータリー全国囲碁大会のご案内」



第3回 役員理事会議事録

開催日時	令和8年9月1日（火）11:30～12:30		
開催場所	三条ロイヤルホテル		
出席者	出席数 17名（委任状2名）/17名		
	齋藤孝之輔、田口実仁佳、松山浩仁、野崎喜嗣、佐藤義英、大橋桂子、羽賀一真、石川一昭、武田恒夫、田崎尚志、森 宏、伊藤博之、白倉 猛、福岡信行、吉川将人、長谷川千佳、石黒隆夫		
協議事項		協議結果	
1. 「夏例会」決算案の件			承認
2. 米山梅吉記念館コーポレーターの件		1口 10,000円協力	承認
3. 社会奉仕事業「三条駅東口改札推進活動」の件		署名活動実施に向けて、次回理事会で詳細説明（予算はニコニコBOXから）	継続
4. 三条市青少年育成市民会議より、「私のメッセージ 三条市小学生大会」の後援のお願い		後援する	承認
5. その他		・ 三条市内4ロータークラブ合同クラブレーシング委員会について ・ 臨時総会開催予定について	報告

委員会報告：花井知之 クラブ会報・雑誌・広報・資料委員長

『ロータリーの友』9月号に、興味深い内容がありましたので、ご紹介します。

横書 P.6「ロータリーのBrandについて考える」では、「良いことをしているのに、知られていないのはなぜですか？」その理由として、活動の成果が十分に伝わっていないことなどが挙げられています。この点について考えていくことで、会員の増強などに繋げる糸口かと思えます。

その一つとして、次のページの「ストーリーテリング」という方法で、話の方程式として「きっかけ・変化・感情・メッセージ」とストーリーを組み立てることで、会話を通してロータリーの良さや、自分がやりたいことを伝えやすくなるというものです。

また、「ブランドボイス」という考え方も紹介されています。会員一人ひとりが発する言葉遣いや語り口に一貫性があれば、ロータリーと他団体との違いをより分かりやすく伝えられるというものです。

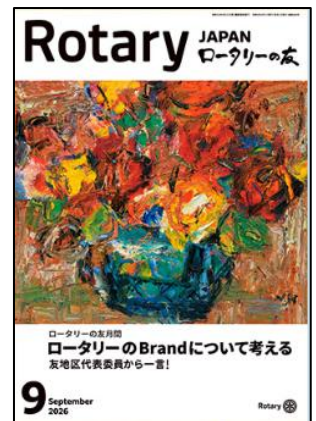
写真を掲載する場合についても、単に集合写真だけではなく、どのような写真を採用するかとい

うことを考え、ロータリーらしさを形成できるようにしていってどうか、という内容が紹介されています。

このような内容がありますので、皆さんで共有しながら取り組んでいけたらと思います。

また、私も知らなかったのですが、ロータリーのロゴについては相当厳しく規制されており、バランスや色などについて、決められたもの以外を使用してはいけないということも、この雑誌の中で紹介されていますので、ぜひ皆さんにも見ていただきたいと思います。

来週の例会は「ロータリーの友月間」でロータリーの友地区代表委員の吉澤様をお招きいたします。ぜひ、出席の方をよろしくお願いいたします。



ロータリー財団 BOX

9月1日現在累計 129,000円

- 外山 晴一 君 今日は防災の日です。千葉、富山、石川、福井と水害被害が伝えられています。7.13水害で被災した私としては胸が痛みます。
- 江田 健一 君 BOXに協力させていただきます。
- 星野 義男 君 暑い日が続きますが、元気で頑張りましょう。
- 森 宏 君 諸橋徹次記念館 館長 安藤正之様を歓迎して。
- 石黒 隆夫 君 諸橋徹次記念館 館長 安藤正之様、本日は卓話ありがとうございます。
- 野崎 喜嗣 君 諸橋徹次記念館 館長 安藤様、本日は卓話よろしくお願い致します。
- 石川 友意 君 安藤館長さんを歓迎して。皆さんのご協力に感謝。



米山奨学BOX

9月1日現在累計 54,000円

外山 晴一 君 協力します。
森 宏 君 田口委員長に協力。
長谷川千佳君 協力します。
田崎 尚志 君 BOXに協力。

スマイルBOX

9月1日現在累計 173,000円

外山 晴一 君 協力します。
石川 友意 君 先日、困った時、田口委員長に助けていただいたので!!
松山 浩仁 君 本日は齋藤会長の代理で副会長の私が務めさせていただきます。
安藤館長、本日は卓話宜しくお願いします。
福岡 信行 君 諸橋徹次記念館 館長 安藤正之様、本日はありがとうございます。
長谷川千佳君 土曜日に会社の組合旅行でサントピアワールドに行ってきました。
恐竜コースターで首をやってしましましたが、楽しかったです。
安藤さん、よろしくお願いします。
羽賀 一真 君 実仁佳さん、僕が会にプレゼントした「お手元めがね」使っていますか?
森 宏 君 ベイスターズが3位になることを期待して。
米山 忠俊 君 諸橋徹次記念館 館長 安藤正之様、卓話有りがとうございます。
8月29日、森田年度結団式に久しぶりに直江津に行ってきました。
石川 一昭 君 諸橋徹次記念館 館長 安藤様、卓話よろしくお願い致します。
石川 勝行 君 安藤館長さん、本日はよろしくお願い申し上げます。
佐藤 義英 君 BOXに協力。
落合 益夫 君 BOXに協力。
花井 知之 君 協力します。
吉川 将人 君 BOXに協力。
田崎 尚志 君 BOXに協力。
田口実仁佳君 ご協力ありがとうございます。

【訂正】No.5号スマイルBOX累計に、
能登地震募金68,000円を含んだ金額で記載いたしました。
正しくは8月25日累計は140,000円です。
訂正してお詫び申し上げます。



本日の行事:「基本的教育と識字率向上月間」

講師紹介: 福岡信行 国際奉仕委員長

本日は、9月の「基本的教育と識字率向上月間」にちなみ、諸橋徹次記念館 館長の安藤正之様をお招きいたしました。

安藤さんとは、実は20年ほど前、PTA活動をしていた頃に大変お世話になり親しくさせていただきました。今回の再会の際には、思わず二人で感激の握手を交わしました。

そんなご縁のある安藤さんより、本日は、三条市の名誉市民である諸橋博士について、また記念館について卓話をいただきます。

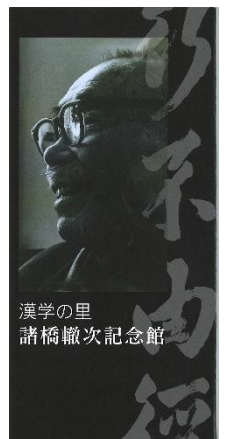
それでは安藤館長、どうぞよろしくお願いいたします。



諸橋徹次記念館 館長 安藤 正之 様

皆様、初めまして。諸橋徹次記念館の安藤と申します。本日はよろしくお願い致します。始める前に、皆様にお断りしておきたいことがございます。私は館長職、まだ2年ちょっとであります。前館長、前々館長と歴代の館長がおられた中で、まだまだ勉強不足です。本日も大先輩の皆様方がいらっしゃる中で、諸橋博士のお話をするは大変心苦しいところもありますが、少しの間、お付き合いいただければと思います。

まず、資料に記載してありますが、記念館の基本方針であります。これをお読みいただくと分かるように、私たちは記念館において何をしていかなければならないのかということが記載されております。当然、三条市の施設として、三条市民のため、そして多くの皆様のために、少しでも当館を活用していただけるようにしていかなければなら



漢学の里
諸橋徹次記念館

ないと思っております。その中で、諸橋轍次という一人の偉大な人物を、私たちが伝えていく。そして、新しい事業に取り組んでいくということを、いろいろな形で進めております。

諸橋轍次博士は、明治16年6月4日、現在の記念館に隣接する生家があります。ここで生を受け、その後、大きな事業を成し遂げてまいりました。諸橋轍次博士については、私よりも皆様の方がよくご存じだと思います。本日は一部だけでもご紹介できればと思います。

小学校卒業後13歳、奥畑米峯先生の静修義塾に入り、漢学の世界へ入っていく最初の関わりがありました。その後、18歳で新潟県第一師範学校（新潟大学教育学部）に入学し、明治37年、21歳の頃に卒業後、東京高等師範学校（現・筑波大学）に入学し、校長を務めていた、嘉納治五郎先生と出会います。嘉納先生は教え子たちに柔道を教えていたそうですが、諸橋轍次は子どもの頃から剣道一筋で生きてきたため、柔道をやりませんでした。その轍次を嘉納先生は、意志の強い、他の生徒たちとは少し違った人間だということを思っていたそうです。当時、政府では中国へ留学生を定期的に送り出していました。そこで諸橋轍次を留学生の一人として推薦し、中国へ渡って勉強してもらおうという思いがあったそうです。しかし、当時は中国へ渡るにも日数もお金もかかり、本人も悩んでいました。そこで嘉納治五郎先生が友人に「こういう生徒がいるが、どうしたらいいか」と相談したところ、ぜひ支援したいと声を上げてくださったのが、三菱商事の岩崎小彌太氏であります。岩崎さんは、創設者である岩崎弥太郎の弟の長男で、当時、三菱商事の社長を務めていました。また、静嘉堂文庫の文庫長も務めていました。岩崎さんは諸橋轍次に、静嘉堂にはまだ資料が不足しているものもあるので、本場中国から漢学に関わる資料があれば持ち帰ってほしいとお願いしたそうです。諸橋氏は、それを持ち帰ることで支援してくださった方への恩返しができるという思いから、中国へ渡った際には、そのような書物を探しながら、さらに勉強を進めていったということであり、帰国後には岩崎さんからある職を与えられ、そのような日々の中で中国への憧れはさらに増し、その後も中国へ渡り、漢学の勉強を続けていきま

した。漢学の勉強を進める中で、漢学者としての知名度も日本国内で次第に高まっていきました。

そのような中、現在も記念館に多くのご協力いただいている大修館書店。その初代社長から、諸橋轍次に依頼がありました。国内には漢和辞典はおおく出ているものの、完成形の辞典が無いので、ぜひ博士に漢和辞典を作ってもらいたいという依頼でした。しかし、この作業は非常に手間がかかり、人力も必要となるため、博士は何度も断り続けたそうです。その後、協力者やさまざまな支援にめどがついたところで、漢和辞典の制作に入ることになりました。諸橋博士の漢和辞典については、世界大戦が始まり、東京大空襲によって一度、資料が全滅に近いほど失われました。しかし、大修館書店や、ご本人の実家である三条に残されていた資料などをもとに制作を再開し、その数年後に全13巻が揃ったということでもあります。その間には、さまざまな苦労があったということです。

もう一つ、諸橋博士についてあまり知られていないお話があります。現在の天皇陛下のお名前について、宮内庁から漢学者の第一人者として協力を求められ、現天皇陛下、また秋篠宮様、紀宮様のお名前を勘申されました。

このように、諸橋轍次博士は多くの方のご協力をいただきながら、数えて100歳まで過ごされました。しかし、大漢和辞典の制作に取り組む中で目がどんどん不自由になり、見えなくなるような状態までになったこともあります。それでも、夏になると生まれ故郷である三条に、毎年およそ1か月ほど滞在していたということです。その際には、毎回ではありませんが、目の治療のため、北三条にある岩田眼科を訪れていたというお話も聞いています。

ここまで、諸橋博士に関わった4人の人物についてお話しさせていただきました。

これを紹介したのは、諸橋博士が大漢和辞典の制作に力を注いでいく中で、そこに関わる協力者がいたということを皆様にお伝えしたかったからです。その方たちが諸橋轍次という人物に色々な形で協力していた。そこには、諸橋轍次に周りの人を引きつける力があったのだということを、一番お伝えしたいと思っております。諸橋轍次博士については、以上であります。

諸橋轍次記念館は、開館から今年で34年目を迎えます。これまで多くの事業を行ってきましたが、主な事業として、10月の「漢字文化理解力検定」、11月の「漢詩大会」、1月から2月に行われる「書き初め大会」、さらに全国漢字検定や小学生を対象とした「漢字ふれあい教室」などを開催しています。また、3年に1回、「大好き漢字の学校巡り」と題した事業も行っています。子どもたちに好きな漢字を一つ選んでもらい、その結果を漢字パネルとして各学校や記念館に展示しています。

現在は、紙に触れたり、ペンを持って文字を書く機会が少なくなっています。だからこそ、紙の資料に触れ、調べるという経験を、少しでも多くの子どもたちに伝えていき漢字を体で覚えたいと考えています。

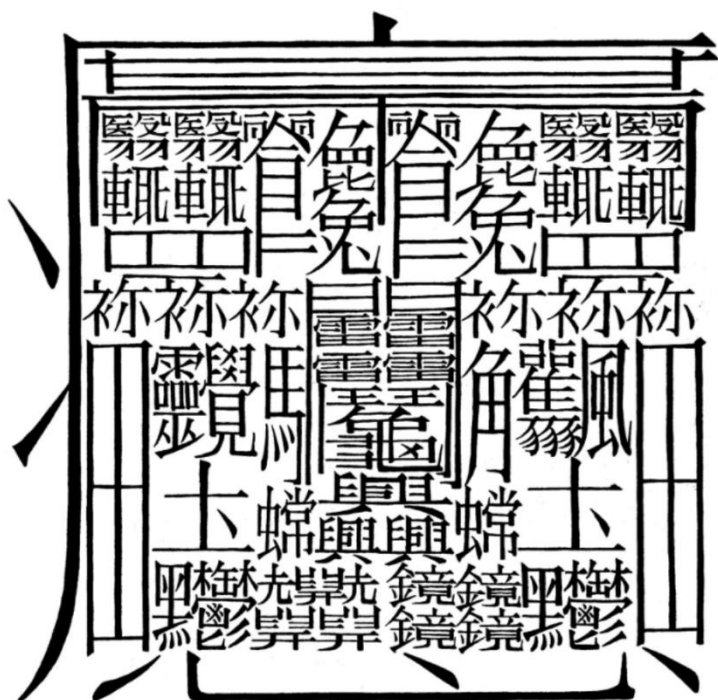
これからも諸橋轍次記念館では、博士の資料を管理保存し、博士の功績を伝えるとともに、講演会など年間事業を通して子どもたちが漢字に触れ、漢字に興味を持つ機会を増やしていきたいと思っています。

最後に、漢字にはさまざまな意味や楽しみ方があります。ぜひ皆様も、こうした漢字の面白さを、子どもさんやお孫さんとの遊びの一つとして楽しんでいただければと思います。

本日は誠にありがとうございました。

【創作漢字】

読み：しんぞ 画数：786画



【辞典に載っている漢字で漢字遊び】

艫

音読み：口

画数：22画
(舟 6+16)

意味：船の前部、後部など

懿

音読み：イ

画数：20画
(心 4+16)

意味：美しい、立派

铎

音読み：ヤ

画数：12画
(5+7)

意味：鎧鉦(バクヤ)
古代中国の名剣の名

朧

音読み：ル・ロウ

画数：23画

意味：見た目や振る舞いが
ちゃんとしているさま





恩送り（おんくり）

2026-27 年度ガバナー 富山 洋 様（雪国魚沼 RC）

7 月よりクラブ公式訪問が始まり、佐渡 RC・佐渡南 RC、中条 RC・中条胎内 RC、新潟東 RC・新潟北 RC・新潟中央 RC、新潟南 RC、新発田城南 RC の皆様に訪問させていただきました。（8 月 21 日現在）

まだまだ訪問は続きますが、どのクラブも温かく迎えてくださり、溢れるホスピタリティに触れるたびに、ありがたい気持ちでいっぱいになります。

今回、私の都合（思い）でグループでの公式訪問をお願いしました。

私は現在も仕事の最前線に立ち、作業服を着て現場に出ることもあります。随行する地区幹事やスタッフもほぼ現役バリバリであり、仕事への影響を最小限にしながら、しっかりコミュニケーションを取れる方法としてグループ訪問を選択いたしました。

この取り組みが、私の後に続く多様なガバナー誕生の可能性を広げる一助となればと願っています。どうか趣旨をご理解いただき、寛大なお心で受け止めていただければ幸いです。

2026 年 7 月 30 日、熊本地震が発災しました。8 月 13 日から千葉豪雨と災害が続いています。

2560 地区は、2004 年の中部地震、2007 年の中部沖地震、そして 2024 年の能登半島地震と、これまで幾度も大きな被害を受けてきました。その度に、全国のロータリークラブ、そして世界のロータリークラブから温かい支援をいただきました。

熊本は 10 年前にも大きな地震に見舞われており、精神的なダメージも大きいと察します。

私の住む南魚沼市六日町も 2004 年の中部地震で甚大な被害を受けました。あの日の記憶は、今も鮮明に残っています。

地震発生時、私は飲食店の店舗建設現場で外看板の打合せをしていました。突然、立ってられないほどの激しい揺れが襲い、建物もアーケードも波打つように揺れました。停電した暗い現場で、

長岡から来ていた左官屋さんは「しばらく来られないだろうし、途中だから仕上げてから帰る」と作業を続けていました。私はブレーカーを落とし安全を確保してから、他のお客様のところを回りました。「来てくれたのはお前だけだ、ありがとう」と涙を流す方もいらっしゃいました。こちらこそ「いつもありがとうございます」です。

その後、生鮮を扱うお客様のために発電機をかき集め、冷蔵庫と照明だけでも活かしながら三日間の徹夜が続きました。停電が復旧してからも、国・県・市からの依頼で復旧作業が続き、私たち電気工事業の使命であるライフラインを守るべく奔走しました。

多くの方から「ありがとう」をいただき、仕事の意味とは何かを深く考えさせられた時間でもありました。

当時いただいた物心両面の支援は、くださった方に直接返すことはなかなかできません。

しかし、あの時の自分たちのように苦しんでいる人へ、いただいた恩を“送る”ことはできます。恩を返すだけでは、そこで終わってしまいます。恩を送れば、受け取った人がまた次の人へ送り、恩の連鎖が続いていきます。

121 年続くロータリーも、先輩方が送り続けてきた恩の連鎖があるからこそ、今日まで続いているのではないのでしょうか。

クラブがなくなるということは、その恩送りの絆が途切れてしまうことなのかもしれません。私たちが今できることは、いただいた恩を次へ送り続けること。それこそがロータリーの精神であり、未来へつなげる力だと思っています。

